

視点

子どもが今をよく生きるために

桜花学園大学

客員教授 小島千恵子



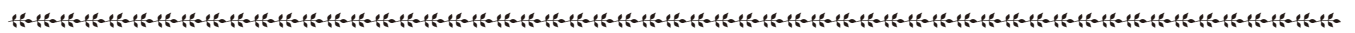
今年も別れと出会いのときがやってきました。別れはさみしいものの、ワクワク・ドキドキするこの時期ですが、ここ数年はそんな心のときめきが薄れています。新型コロナウイルスの感染拡大で、いろいろなことの見直しを余儀なくされました。ようやく社会はafterコロナへと移りつつあります。新型コロナウイルスが3年間でもたらした影響については、今後様々な角度から検証されていくでしょう。

コロナ禍の3年で子どもや子育て、教育や保育にもいろいろなことが起きています。世界規模で考えるとロシアのウクライナ侵攻は、さまざまところで「生きる」ことを改めて考えることになりました。罪もない幼い子どもの命が犠牲になっています。それはいまだ終局には至っていません。「自ら育つ」ことさえ遮られてしまった命、そして夢に向かって飛び立とうとする心にも歪を与えてしまっています。この現実を目の当たりにして、戦争などの影響で生じている物価高への悩みや、危機感は覚えながらも戦争は遠くの国で起こっていることと感じていることは否めません。しかしながら、次代を担う子どもの将来を考えたときに「どうなる日本」と、不安になるのは私だけではないはずです。

今、「異次元の子育て支援政策」が話題になっています。出生率のさらなる低下を受け、政府は今まで以上に子育て支援の予算増加を示していますが、遡ればこのような発信は、1990年の「1.57ショック」から問題視されてきました。少子化が進むことや、経済格差による子どもの教育格差が大きくなっていくことも予測できたことでしょう。少子化と子育て、子どもの育ちの支援を同じ視点で考えてきたことが、今につながっているのではないかと私は考えます。

「保育所の利用児童数のピークは令和7年となる見込み」と、厚生労働省が発表しています。これから減り続ける、「子どもの数、待機児童の数」と、「保育所等の数」を比較すると、令和7年頃に保育の需給バランスは逆転するという問題です。このように厚生労働省が保育のピークアウトについて公表するのは初めてです。加えて、保育・教育という仕事に対する若者の意識が薄くなり、保育・教育者をめざす学生の減少も課題です。このことは、全国の養成大学、短期大学の存続という課題にもつながっています。保育者離れによる養成校の学生数の減少は、幼稚園・保育園・こども園などの保育施設にとって本格的な競争市場になっていくことが予想されます。子どもをもつ家庭（親）、保育者をめざす学生から「選ばれる園」になることを考えていかねばならないでしょう。

私は、現職を経験後、保育者養成大学で教鞭をとってきました。3月までのこの1年間は、教育・保育職を支援する立場で、実習や就職、保育職に就いている卒業生にかかわってきました。保育者をめざす学生は、保育という仕事に夢と希望をもって学び、保育者となって社会に貢献することを目指しています。卒業して保育現場で苦悩する姿も見てきました。その傍らで寄り添いながら、保育の現職経験も含めて45年、今思うことは、真の保育・保育者のあり方についての議論の重要性です。「子どもが今をもっともよく生きる」ことについて、教育・保育に携わる者が様々な枠しがらみ抜きで議論できることが保育現場を支えるエネルギーにつながっていくのではないのでしょうか。



幼稚園機能の活用②

誕生から満3歳までの子育ての支援活動の充実

全日本私立幼稚園連合会
会長 田中 雅道

幼稚園は園庭開放などを通して、地域のすべての乳幼児の遊び場として、保護者の多様なニーズに沿って活動を展開しています。現在、子どもを授かった家庭への子育ての支援は多様であり、一人ひとりそのニーズは微妙に異なっています。公園よりも安全で清潔感のある環境を求めて幼稚園の園庭開放に定期的に通ってくる保護者も多いです。そのような活動を通して親同士も知り合いになり、お互いの悩みを話したり、一緒になって幼稚園に相談に来る姿が着実に多くなってきています。

このような子育ての支援事業は、公的支援の対象外となっていることが多いので、それぞれの園のボランティア活動として行われているのが実情であります。子どもが遊ぶ場を共有することに意味を感じている園では、保育時間内に専任の教諭を当てて事業を行っているところもあります。補助制度ができたから実施するというのではなく、地域のニーズに敏感に応じて園の持っている力を発揮しようと努力するのが私学であります。ただ、園の努力ではどうにもできないような現状になりつつあり、人的配置を考えてもその余裕がなくなってきました。また、現在いる職員の負担増になるような事業展開はできません。幼稚園が地域の社会的資本として余裕のある十分な活動ができるよう公的支援が望まれます。

従来幼稚園は、満3歳以降の園児に対して良質な環境を提供し、子どもが環境に触れることを通して学びを深める幼児教育を行ってきましたが、良質な環境の提供は満3歳児以降だけに対してでなく、

地域のすべての子どもが気軽に利用できる制度の設計が求められています。満3歳児以降だけを対象とする時代から、地域のすべての子どもが利用できるよう幼稚園機能を拡充し、制度としてすべての子どもに対して良質な環境を提供できるよう補助制度の拡充が求められます。

地域のすべての親子が自由に幼稚園を利用できるよう、親子での利用時間・回数など柔軟な制度で対応できるよう、対応する教諭の人件費補助など、公的に幼稚園の活動を支援する補助制度を構築し、親からの子育てに関する不安などの相談があった場合には、適切な機関への橋渡しをするなど親の子育て不安解消への役割を担うなど、保護者の子育て不安解消への役割を幼稚園が担わなければならない時期に来ていると思っています。

少子化対策は、家庭での親子に時間を確保することが最優先の課題と考えます。家庭への金銭援助、地域における子育てへのサポートなど複合的な政策が必要です。全日本私立幼稚園連合会は、子育てへの不安を抱えておられるすべての家庭に対して、園の持つ機能を十分に発揮し、子どもを産み育てることが楽しいことだと実感してもらえよう地域に貢献していきたいと考えています。

令和5年度会費を議決

令和5年2月6日、東京・アルカディア市ヶ谷にて団体長会・理事会合同会議が開催され、54名が出席しました。はじめに、角谷正雄副会長から開会のことばがあり、引き続き、田中雅道会長からあいさつがありました。

その後議題に入り、議長に畠山遵氏（富山）、奥野宏（大阪）が選出され、議事録署名人に木内啓嗣氏（徳島）、坪井久也氏（香川）が選出されました。

■審議案件（1）令和5年度会費（案）について

令和5年度の会費および会費の算出について、福井徹人総務委員長から説明がありました。令和5年度の会費は、[園割会費 12,000円/園]、[園児割会費 70円/園]を納入していただくことが審議され、賛成多数で承認されました。

■（一財）全日本私幼研究機構からの報告

全日私幼研究機構・安家周一理事長ならびに加藤篤彦専務理事から、①令和4年度の収支状況及び令和5年度の運営、②幼稚園ナビの今後の方向性、③令和6年度以降の収支見込、④その他事業運営に関する報告について、説明がありました。

■報告案件（1）会務運営報告について

各委員会委員長から活動報告がありました。



■報告案件（2）少子化対策について

少子化対策について、田中雅道会長から国の動向に関する説明がありました。続いて、内野光裕副会長並びに角谷副会長から資料説明がありました。

■その他

（公財）山口県私立幼稚園協会からの要望があり、福井徹人総務委員長からその回答がありました。

最後に監事より監事所見を行い、山西幸子副会長から閉会の言葉が述べられ、終了しました。

（総務委員長・福井徹人）

クラスや園のみんなで楽しめる

アプリがチャイルドブックから登場！

お誕生日会に

生活指導に

絵本の読み聞かせに

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

ダウンロード無料

いっしょによむぞう サブスクリプション料金

特別価格	1アカウント/月額プラン	5,500円(税込)
	1アカウント/年額プラン	55,000円(税込)

※チャイルドブック担当営業員を介してご購入いただいた場合の価格です。

初回会員登録限定 **30日間無料体験実施中!** 対応OS iPad OS 14以降 / Android OS Android 5.0以降

会員登録した日から30日間無料ですべての機能をご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの端末でお試ください。

iPadはこちら

Androidはこちら

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21

TEL 営業 03-3813-2141 編集 03-3813-3785

チャイルド本社

令和 5 年度事業計画・予算等を議決

令和 5 年 2 月 24 日、東京・アルカディア市ヶ谷にて常任理事会が開催され、33 人が出席しました。はじめに、尾上正史副会長から開会のことばがあり、引き続き田中雅道会長からあいさつがありました。会長あいさつでは、すべての子どもたちに良質な幼児教育を提供すべく、少子化対策に関する現状とこれからの課題を踏まえ、加盟園並びに政府に対して情報発信を行っていききたい旨が述べられました。

その後議題に入り、議長に山西幸子副会長が選出され、議事録署名人に武田正廣氏（秋田）、千葉亮子氏（山形）が選出されました。

■審議案件（1）令和 4 年度補正予算の件

令和 4 年度補正予算について、福井徹人総務委員長から説明がありました。審議の上、賛成多数で承認されました。

■審議案件（2）令和 5 年度事業計画の件

令和 5 年度事業計画について、各委員会委員長、こどもがまんなかプロジェクト及び政令指定都市特別委員会から説明がありました。審議の上、賛成多数で承認されました。

■審議案件（3）令和 5 年度収支予算の件

令和 5 年度収支予算について、福井徹人総務委員長から説明がありました。審議の上、賛成多数で承認されました。

■報告案件（1）少子化の件

令和 5 年 2 月 20 日に自由民主党本部にて開催した、「こども・若者」輝く未来実現会議において提出した要望書の説明を田中会長より行いました。会議当日は、小学校に通いづらくなっている子どもたちに対するケアをボランティアで行っている園が多くある現状、子育て支援策の一つの事業としてしっかりと位置付けて欲しい旨の要望を行いました。また、3 歳までの子どもたちに対しては、親の



就労状況に関わらず、全ての子どもたちに対して支援の手を差し伸べる組織として、幼稚園・認定こども園は変革していくことの提案を行うとともに、根本的な解決策として、働き方改革の推進と家庭を持つことの幸福感について社会全体で見直しをしていかなければならないこと等、以上の 3 点を中心に要望・提案を行った旨の報告がありました。田中会長は、今後も少子化について団体長・理事の先生方と協議し、全日私幼連としての主張を政府等へ行っていく旨の説明を併せて行いました。

■報告案件（2）委員会報告の件

各委員会委員長より、活動報告を行いました。

■（一財）全日私幼研究機構からの報告

（一財）全日私幼研究機構からの報告として、安家周一理事長より

処遇改善等加算Ⅱにかかる研修修了要件の幼稚園・認定こども園キャリアアップ研修におけるマネジメント分野の取扱いについて、三府省合同通知や各種 FAQ の改訂・改正の経緯により、様々に解釈がなされていることを受け、内閣府及び文部科学省へ確認した内容について説明がありました。

最後に、監事より監事所見を行い、松岡明範副会長から閉会のことばが述べられ、終了しました。

（総務委員長・福井徹人）

● 2.2 政令指定都市特別委員会研修会

第 6 回政令指定都市特別委員会研修会開催

令和 5 年 2 月 2 日、東京・アルカディア市ヶ谷にて第 6 回政令指定都市特別委員会研修会が開催され、全国から約 50 名が参加しました。

はじめに、角谷正雄全日私幼連副会長による開会のあいさつ、柿迫重正全日私幼連政令指定都市特別委員会委員長による趣旨説明がありました。研修会の詳細は下記のとおりです。

講座 1：「こども家庭庁について」

講 師 内閣官房こども家庭庁設立準備室
内閣審議官（併）教育改革調整官
浅野 敦行 氏

講座 2：「親子間の愛情形成（アタッチメント）について」



講 師 音楽家／作家／元埼玉県教育委員長
松居 和氏

最後に、松尾創全日私幼連政令指定都市特別委員会副委員長より閉会のあいさつがあり、研修会は終了いたしました。

● 2.22 102 条園委員会研修会

令和 4 年度 102 条園委員会研修会

令和 5 年 2 月 22 日、東京・TKP 市ヶ谷において、令和 4 年度 102 条園委員会研修会がオンライン形式にて開催され、全国から 46 名の先生方が参加しました。

はじめに、尾上正史全日私幼連副会長より開会のことばがあり、公認会計士・税理士・特定行政書士である白井健二郎先生より、「相続非課税制度と家族信託について」ご講演いただきました。講演では、相続税非課税制度とはどのような制度なのか、制度を利用するためにはどのような条件が必要なのか、また、反対に、非課税が受けられない場合の対策や、成年後見制度と家族信託の違い、デメリット等を



ご説明いただきました。講演後は、事前質問及び当日質問に対し、白井健二郎先生にご回答いただきました。

最後に、溝渕真澄全日私幼連 102 条園委員長より閉会のあいさつがあり、研修会は終了しました。

ホーネット 車内置き去り防止システム

カーセキュリティ機能付き車内置き去り防止システム

- エンジン停止後にブザーが鳴ります。
- 見回りながら後部に設置したリモコンボタンを押してブザーを止めます。

車内センサーが人の動きや振動を検知してアラームでお知らせ！

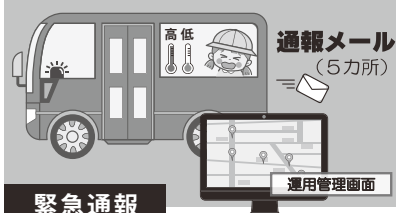


標準セット

超音波センサー

2段階衝撃センサー

車両の位置情報や移動履歴などをスマホやPCで管理できます。



緊急通報

通報メール
(5カ所)

運用管理画面

アナログによる
ヒューマンエラー
防止

デジタルによる
見守り



株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11
ホームページ：<https://www.child.co.jp/>

● 2.13 後継者育成研修会

第 11 回後継者育成研修会が開催される

令和 5 年 2 月 13 日、東京・アルカディア市ヶ谷にて、私立幼稚園・認定こども園の次代を担う園長先生や後継者の先生を対象とした「第 11 回後継者育成研修会」が開催され、全国から 114 名の先生方が参加しました。

はじめに、角谷正雄全日私幼連副会長より開会のあいさつが述べられた後、佐々木慈舟全日私幼連経営研究委員長の概要説明が行われました。研修会の主な内容は下記のとおりです。



● 講演 1

演 題 「少子化加速 & 園児減少時代の園経営、園運営に必要な 3 つの視点」

講 師 社会保険労務士法人人財総研
特定社会保険労務士 安岡知子氏

内 容 少子化加速 & 園児減少時代において、持続可能な園経営、園運営のための戦略を考える上で必要な 3 つの視点をお話いただき、保育施設での虐待や事故、ハラスメントや育児介護休業の法改正情報、R4 年度の公定価格における人件費の改定分等のトピックも説明いただきました。

● 講演 2

演 題 「OPARK の取り組みについて～園におけるリーダーシップとマネジメントに着目した保育の質改善の取り組み～」

講 師 ひかり幼稚園 主事 平林祥氏
認定こども園 高槻双葉幼稚園 教頭 岡部祐輝氏
豊中文化幼稚園 松田惇生氏

内 容 内外部の評価を通じ、園の質の維持・向上を図ることを目的とした大私幼連発信「OPARK」(オパーク)について、概要や開発の背景をはじめ、自園での活動や取り組みについてご説明いただきました。(参考:(一社)大阪府



私立幼稚園連盟、OPARK 実行委員会
「OPARK 紹介冊子」

● 講演 3

演 題 「園で虐待を起こさないための保育とは」

講 師 ジャーナリスト/名寄市立大学特命教授/明福寺ルンビニー学園幼稚園・保育園副園長 猪熊弘子氏

内 容 園で不適切な保育が起こらないための環境づくりや同僚性を高めるための風土づくりや子どもの権利に着目し、虐待のない健全な保育を目指していくための取り組みについてご説明いただきました。

研修会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中研修会は終了いたしました。

「事務職等向け」オンデマンド研修のご案内

全日私幼連では、「事務職等向け」オンデマンド研修コンテンツを作成し、全日私幼研究機構と連携のもと第三期に分けて計 14 コンテンツを配信しております。配信につきましては、事務職等（事務、バス運転手、バス添乗員、厨房職員、看護師）の専門分野及び、幼稚園・認定こども園で働く上で大切な内容になります。なお、本研修は処遇改善等加算Ⅱに対応した研修となりますので、是非、研修の受講をご検討いただきますようお願い申し上げます。

【第一期研修内容と申込期間等について】

1. 社会人マナー①接遇&業務の遂行の基本動作研修
2. 社会人マナー②危機管理&子ども虐待の再確認研修
3. 遊具安全点検について
4. 保育事故防止の取り組みについて
5. 職員による子供への虐待を予防するために
6. 労務初級 1
7. 教育保育施設における看護職の役割

【申 込 期 間】令和 5 年 2 月 7 日（火）10 時～4 月 5 日（水）17 時

【動 画 視 聴 期 間】令和 5 年 2 月 7 日（火）10 時～4 月 6 日（木）17 時

【3 択 5 問提出期間】令和 5 年 2 月 7 日（火）10 時～4 月 13 日（木）17 時

【第二期研修内容と申込期間等について】

8. バス運行の安全確保について
9. 学校法人会計の基礎知識
10. 帳簿書類の取り扱いについて
11. 労務初級 2
12. 乳幼児期の食育
13. 食物アレルギーの最新基礎知識と対応

【申 込 期 間】令和 5 年 2 月 14 日（火）15 時～4 月 12 日（水）17 時

【動 画 視 聴 期 間】令和 5 年 2 月 14 日（火）15 時～4 月 13 日（木）17 時

【3 択 5 問提出期間】令和 5 年 2 月 14 日（火）15 時～4 月 20 日（木）17 時

【第三期研修内容と申込期間等について】

14. リスクマネジメント
15. 労務初級 3

【申 込 期 間】令和 5 年 2 月 28 日（火）10 時～4 月 26 日（水）17 時

【動 画 視 聴 期 間】令和 5 年 2 月 28 日（火）10 時～4 月 27 日（木）17 時

【3 択 5 問提出期間】令和 5 年 2 月 28 日（火）10 時～5 月 8 日（月）17 時

【研修動画の無料配信について】

第一期の「5. 職員による子供への虐待を予防するために」及び第二期の「8. バス運行の安全確保について」は研修動画を無料配信しています。ご希望の方は下記 QR コードよりご視聴下さい。

5. 職員による子供への虐待を予防するために

8. バス運行の安全確保について



【申込方法】

幼稚園ナビより、申込を随時受付中でございます。

ご不明な点ございましたらご連絡下さい。



令和4年12月号より、西九州大学短期大学部幼児保育学科教授の牛丸和人氏による年間連載を開始いたしました。発達段階に応じた造形（表現）教育等を専門分野とし、教育者でありながら画家としても活躍されている牛丸先生の連載より、幼児教育への理解を深める機会にさせていただきますと幸いです。

「子育て支援」を考える

西九州大学短期大学部
幼児保育学科教授 牛丸 和人

1 子どもたちを取り巻く環境の激変

多くの園長先生方も子どもたちを取り巻く環境が、ここ10年余の間で激変したと感じていらっしゃると思います。地球規模では温暖化による気候変動、身近なところでは男女共同参画の推進による家庭での子育てに対する役割分担の変化、そして多くの老若男女が日常的にスマホを手放せない状況等々、かつては予想もしていなかったような環境が子どもたちを取り巻いています。

2 「子育て支援」の提言

このような環境の変化に伴い、子育ても旧態依然とした方法ではうまく対応できない状況です。その対応策の一つとして、文部科学省が幼稚園における「子育て支援」の必要性を提言したことは既にご存じのことと思います。変化に戸惑っているのは子どもだけではなく、子育てに悩んだり、身近に相談相手がないことで孤立感を募らせたりしている保護者が増加しているためです。家庭教育における保護

者の不安や苛立ちが、虐待やネグレクトにつながるケースも増加しています。このことを踏まえ「幼稚園は保護者の子育てに対する不安やストレスを解消しつつ、子育ての喜びや、やり甲斐を体感させるようなサポートもして欲しい」と提言されたのです。ただでさえ多忙を極める園の現場ですが、そこに新たなミッションが与えられたわけです。対応に苦慮されている園長先生も少なくないのではないのでしょうか。

3 「子育て支援」の実際

実際に、幼稚園ではどのような子育て支援ができるのでしょうか。園の規模や地域の特色を踏まえながら、各園では創意工夫した実践が始まっていることと思います。園長先生のご了解が得られましたので、中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園（岐阜県関市）の取り組みの一部を紹介させていただきます。保護者・子ども・教師・地域住民・大学の教員等が直に触れ合いながら子育ての悩みや不安を解消する



遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。

創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。

あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



JAKUETS

場、そして子育ての喜びを感じる場が提供されています。

① 「ぴよママ」(0歳～1歳)

0歳から1歳の子育て中の保護者と、地域の子育て経験者等が交流する場です。1回100円の参加費で年5回開催され、地域の子育て支援センターの役割も果たしています。

② 「ファミリープラザ」(1歳～3歳)

1日20名限定で週3回、園庭の開放、親子遊びや託児が行われています。朝の会・リトミック・手遊び等を親子で行ったり、月に一度の誕生日会も行われたりしています。これらは保護者と幼稚園教諭との子育てに関する情報交換の場にもなっています。

③ 「きりっこひろば」(1歳～3歳)

月1回午前中75分で開催されています。定員制限はなく毎回テーマに基づいた活動が行われます。また大学の専門講師による子育てに関する悩みの相談も受けられます。さらに参加者同士がグループで情報交流をする時間も設けられ、子育て中の保護者の孤立感解消にもつながっています。

④ 「子育て相談」(満3歳～5歳)

毎週火曜日に専門講師が相談に応じ、希望する保護者には大学の専門講師との面接相談につながることもあります。

取り組みの一部を紹介させていただきました。大学・短大の付属園という特色を生かした実践もあり

りますが、積極的な子育て支援が展開されていることがお分かりになられると思います。詳しくは園のHPをご覧ください。

4 個性化と孤性化

ネットやゲーム等、子どもの室内での一人遊びが増えました。これは、大人社会の縮図ではないでしょうか。公園や広場で仲間と遊ぶ姿は減りましたし、そのことで子どもと地域とのつながりが希薄になりました。また「声かけ事案」への過剰ともいえる対応で、地域住民が子どもたちに気軽に声をかけることも憚れる時代になりました。子どもが自然と触れ合う場や仲間(人間関係)づくりを学ぶ場がどんどん失われています。加えて、家庭内でも共働きが増え、保護者が子どもとゆったり触れ合う時間も減りました。また、一緒にいても保護者は子どもよりもスマホに夢中という家庭も少なくないようです。大人社会も子ども社会も、「孤性化」が進んでいることを警戒しなければならないでしょう。

5 伝える・つなげる・支える

園の規模や人材によって「子育て支援」に係る取り組みには限界があり、一朝一夕に進むものでもないでしょう。しかしながら園に「子育て支援」のリーダー的な役割が求められる中で、まずは園、保護者、地域住民、関係機関の代表が膝を交えて意見交換する場を設け「伝える・つなげる・支える」の視点で可能なレベルからスタートしていただければと願っています。

園長も職員も、みんなで学べる・話せる誌面をお届けします

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ

「こどもまんなか社会」に向け、選ばれる魅力ある園づくりに役立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「乳児保育」「小学校との接続」など必須の情報をお届けします。

B5判 72ページ 定価 1,200円(本体1,091円+税10%)

「ICT活用術」
「働き方改革」など、
注目テーマも掲載！

誌面と
連動した動画を
毎月配信！

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 子育て支援事業部 営業推進チームまで

キンダーブックの **フレイベル館**



受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として**全額損金算入**することができます。

ご利用には一定の要件があります。詳細については、「受配者指定寄付金事務の手引」をご覧ください。

参照：私学事業団ホームページ[助成業務のご案内]▶受配者指定寄付金▶受配者指定寄付金「寄付金事務の手引」

ご不明な点など、下記までお気軽にご相談ください。

日本私立学校振興・共済事業団
助成部 寄付金課
〒102-8145
東京都千代田区富士見 1-10-12
TEL 03-3230-7316 ~ 7318
e:mail kifukin@shigaku.go.jp
HP-URL <https://www.shigaku.go.jp/>

受配者指定寄付金制度

をご活用ください

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

はじめてみませんか 寄付金募集

寄付募集の情報を掲載しませんか
私立学校寄付金ポータルサイト
<https://kifu-portal.shigaku.go.jp>

- ・園の特色や所在地など、寄付者の視点で情報を検索できるサイトです。
- ・掲載方法等は左記までお問い合わせください。

アクセスはこちら→



※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

子育てフォーラム 35

徳島県私立幼稚園・認定こども園協会 60 周年、徳島県 PTA 連合会 50 周年記念式典および「子育てフォーラム・イン・とくしま 35」～子どもがまんなかプロジェクト～が令和 5 年 1 月 17 日に行われました。近年、子育てフォーラムは保護者の負担を鑑み、規模を縮小しての開催となっていました。また、コロナ禍により、3 年間は各園の役員のみでの参加で後日動画配信という形で開催しておりましたが、今回、協会 60 周年、連合会 50 周年の記念も兼ね、盛大に開催することができました。

子育てフォーラムは、保護者が主催で昭和 63 年から始まり、絵本作家や医師、著名な方を招き、子育てに関する講演を行ったり、親子で楽しめるスポーツイベントや音楽会を開いたりしています。

今回は、童画家の小野孝一先生とこども環境クリエイターの星野はるか先生を招き「豊かな視点と想像を育むこどもとアートの関わり」について講演をしていただきました。小野先生からは、子どもが絵画や製作をするときには、上手にしようとするのではなく、楽しむことが一番大切であるということをお話いただきました。星野先生からは、保育や育児において実践的に使えるテクニックを教えてください、簡単に動物の顔を描く技法を参加していた保護者や教員で実際に試し、楽しい時間を過ごしました。終了後「とてもためになった」「今後の子育てや教育に活かしていきたい」と参加者たちからの感想を聞き、今回開催できたことを喜ばしく思いました。

今後も継続的に開催し、子育てについて保護者とともに学び、こどもをまんやかに、保護者と教員が一緒になって子どもたちを育てていきたいと思えます。

(徳島県私立幼稚園・認定こども園協会研修担当、阿南市・神崎幼稚園／村田千子)

豊かな親育ち、子育てのために

ワールドカップと同じ 4 年に一度の「広島県私立幼稚園教育振興大会」を、先日、コロナ禍ではありますが、知事、県議会議長、市長ほか 12 名の県議会議員の方々をお招きして保護者、教職員と共に盛大に開催いたしました。広島は、私立幼稚園・認定こども園を応援して下さる振興議員連盟の県議会議員の先生方と大変良好な関係にあり、いつも支えていただいております。

大会は「未来をつくる子どもたちの幸せのために、持続可能な幼児教育・保育の実現を目指して」というスローガンを掲げ、大会宣言を採択いたしました。

その後の記念講演では、吉本興業株式会社所属の「家事えもん」こと松橋周大呂さんに、「一度聞いたらずーっと家事を時短できる！かんたん家事講座！」という演題で 90 分色々なことを伝授していただきました。流石お笑い芸人さん！笑い、ユーモアを交えながらの話に皆さんの顔色は止まりませんでした。即、実践できそうなものばかりで、来てくださった保護者の方は、皆さん笑顔で帰途につかれました。保護者の声を聴いてみると、「帰って主人に話し協力してもらいました」「早く知りたかった！」等、家事の時短に大貢献です。仕事を持たれている方も多い中、時間を有効に使うことができれば気持ちにも余裕が持てます。その時間を保護者自身の為や、子どもと向き合う為に使えたら、親子ともに心が豊かになると思います。子どもへのフォローは勿論ですが、連盟が保護者支援の役に立てたら……。上手な時間の使い方等を、今後も提案できればと思います。

((公財) 広島県私立幼稚園連盟副理事長、広島市・ひろみ幼稚園／清川里佳)

編集後記

この3月卒業した年長児は、年少入園直後1か月半の休園となり、6月からようやく新学期がスタートしました。しかし、密を避け、うがい、手洗い、手指消毒の徹底、マスクの着用など慣れない園生活の始まりでした。また、多くの行事が無観客や人数制限あるいは中止になりました。今思えば、あんなに恐れることはなかったのではないかと思います。コロナウイルスの知識も乏しく、ワクチンもない中では仕方のないことだったのだ

と思います。5月から感染症法上の位置付けも「2類」から「5類」へと移行し、マスクの着用についても見直されました。この3年間で失ったものもたくさんありましたが、リモートでの勤務やZoom会議など、今まで当たり前だと思って行ってきたことを考え直し工夫する良い機会になりました。そして、出勤すること、対面で会議をすることがいかに大切であるかを知ることができました。
(広報委員長・波岡伸郎)

今後の主な会合予定

◎会議

4月28日	常任理事会	東京・私学会館
5月12日	団体長会・理事会合同会議	東京・私学会館
5月24日	定時総会	東京・私学会館

◎地区教研大会

北海道地区	8月1日	北海道・札幌市
東北地区	10月20日・21日	福島県・郡山市
関東・神奈川地区	8月9日・10日	群馬県・高崎市
東京地区	7月25日・26日	東京都・千代田区
東海北陸地区	7月27日・28日	長野県・長野市
近畿・大阪地区	7月24日	和歌山県・オンライン
中国地区	8月21日・22日	鳥取県・鳥取市
四国地区	8月3日・4日	香川県・高松市
九州地区	8月3日・4日	大分県・大分市

※会合の日程は変更になる場合がございます。
予めご了承くださいませようようお願い申し上げます。

お知らせ

令和5年3月8日、衆議院第二議員会館において幼児教育議員連盟（自由民主党）の総会が開催され、本連合会からは、正副会長・政策委員長・認定こども園委員長が出席致しました。会議では、中曽根議連会長より、未来への投資であるこども政策の強化に関する必要性についてお話をいただき、本連合会からは、田中会長が代表して要望書を提出するとともに、安心して子供を産み育てられる環境をつくること、さらには産みたくするような環境をつくることの重要性をお話されるとともに、労働政策のみではなく、全ての子どもたちに対して子どもがまん中の「子育て支援の充実」について具体例を挙げて要望されました。なお、総会の詳細については、私幼時報5月号（令和5年4月10日発行）に掲載する予定です。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表